

JAMSTEC  
SPECIAL

## 平成26年度 平理事長 創立記念式典ご挨拶

(2014年4月1日(火) 於: 横須賀本部)

今年の冬は、大雪が何回か来襲し、皆様も雪かきに追われるという時期があったと推察します。春が来て、桜が満開という良い季節になりました。このように皆様と新しい年度を迎えることができることを共に喜びたいと思います。

年度の変わりには常に、人の往来があります。退任される方々には、これまでの多大なる貢献に感謝するとともに、新人の方々には、これからの活躍をお願いしたいと思います。また、昨年度までの中期計画の間、JAMSTEC では、多くの役職員と関連各社の努力、また外部の方々の支援によって、無事に多くの目的を達成できました。ここに深く感謝申し上げます。

また、2011年3月11日の大震災から、3年以上が過ぎましたが、まだ25万人という方々が避難生活を余儀なくされていることを思い、巨大地震津波そして原発事故への引き続き取り組みに決意を強くして参りたいと思います。

まず、役員的人事についてご報告を申し上げたいと思います。私は、理事長として、今日からの中期計画5年の任期を務めることになりました。改めてよろしくお願いたします。堀田理事、白山理事、土橋理事、他谷監事についても再任となります。非常勤監事については、中原裕幸様が退任となり、前田裕子様が、就任いたします。前田様は、ブリヂストン株式会社の知的財産本部長であり、工学博士であります。電子工学、グローバルイノベーション、知的財産、産学連携などの分野で広く知られた方であり、組織にとって、間違いなく強力なメンバーになって頂けることと期待しております。また、新たに相談役として元 NTT コミュニケーションズ社長の和才博美様に就任して頂くことになりました。大所高所からのご意見、アドバイスを頂くことになっていきます。このように、産業界からの風を吹き込んで頂くということが、今回の新しい人事の特徴でもあります。

さて、平成26年度から新しい中期計画が始まります。その目標は、海洋、地球、生命の統合的理解を目指して、学問領域を超え、研究、技術、事務全員が力を合わせて取り組もうというものです。これについては、すでに皆様に説明をしてきたところです。

このような課題の達成に関して、私たちは、多くのことにも目配りをしながら進まねばなりません。本中期計画中に JAMSTEC は研究開発法人という新しい制度の組織となり、防災科学研究所との連携が強化されていきます。その中で地震・津波観測監視システム(DONET)の移管が行われますが、DONET は JAMSTEC の宝であり、魂ですので、慎重に議論しながら良い関係を作りたいと思います。

また、最近、世間では、さまざまな分野において、現場の



規律や信頼性が失われてきているということがあります。現場の信頼が失われると、その回復は一朝一夕ではなりませんし、時に、致命傷を負う事態に発展しかねません。我々の組織も、様々な現場を持っています。規律、環境、安全、など現場の緊張を決してゆるめることなく、かつ想像力を豊かにして、信頼性の堅持に努力していきたいものです。

最後に、就任の時に述べた言葉を繰り返します。「自然とは何か、生命とは何か、人間とは何か、という深い思索と教養を基礎とし、自由闊達にして、多に愉快なる理想研究所を建設しよう」ということです。皆様とまた力を合わせて前進したいと思います。頑張りましょう!

平成26年4月1日  
理事長 平 朝彦

2014年4月1日より、下記の役員体制となりました。

理事長：平 朝彦	研究担当理事：白山 義久
経営管理担当理事：土橋 久	開発・運用担当理事：堀田 平
監事：他谷 康	監事(非常勤)：前田 裕子

## ●監事に前田裕子氏が就任

株式会社ブリヂストンでグローバルイノベーション管掌付フェロー(本部長)をされている前田裕子氏が非常勤監事に就任しました。電子工学、知的財産、産学連携などの分野で広く知られた方で、産業界からの風を吹き込んで頂くことが期待されます。

JAMSTEC  
TOPIC横須賀本部専用岸壁棧橋新設工事および無人探査機整備場増築工事  
竣工披露記念式典

2014年4月8日に JAMSTEC 横須賀本部の専用岸壁棧橋新設工事および無人探査機整備場増築工事の竣工披露記念式典を行いました。

棧橋を新設することで水深が 5.5m から、8.0m となりました。近年、水深の影響で JAMSTEC 船舶の着岸に支障が出ておりましたが、これにより一層効率的な船舶の運用が可能となります。また、無人探査機整備場は新型無人探査機や観測機器等を整備するため、拡張致しました。

記念式典は晴天の中、文部科学省や、近隣関係者の皆様をお招きして行われました。





## 第16回全国児童「ハガキにかこう海洋の夢コンテスト」入賞者発表

全国児童「ハガキにかこう海洋の夢コンテスト」は、文部科学省、日本理科学術協会、財団法人画像情報教育振興協会の後援のもと、JAMSTEC が全国の小学生を対象として毎年開催しているコンテストです。絵画部門、CG部門およびアイデア部門の3部門において、ハガキサイズの紙に海洋への夢やアイデアを表現した作品を募集しています。

16回目を迎えた今回は、全国から総数 32,789 点の応募があり(絵画部門 30,000 点、CG 部門 2,526 点、アイデア部門 263 点)、厳正な審査を経て入賞 15 点、入選 105 点、準入選 589 点が決まりました。入賞・入選作品 120 点は JAMSTEC のホームページにて公開します (<http://www.jamstec.go.jp/j/kids/hagaki/index.html>)。

なお、特に積極的にご応募いただきました 10 団体へは、「海洋科学技術普及賞」を贈呈いたしました。

最優秀賞

### 文部科学大臣賞

「ゴエモンコシオリエビの海の昔話会」

石原 彰 埼玉県さいたま市立太田小学校 6 年生



絵画部門

優秀賞

### 海洋研究開発機構 理事長賞

「アクアシティー」

中島 未裕 兵庫県神戸市立桜の宮小学校 6 年生



絵画部門

アイデア部門

### JAMSTEC アイディア賞



「大発明! ホタルイカスーツ!」

武 東史郎 岐阜県土岐市立泉小学校 4 年生

絵画部門

### 日本理科学術協会賞



「かくれてないで  
でておいでよ」

浪岡 宙輝 大阪府大阪市立大宮西小学校 4 年生

CG 部門

### CG-ARTS 協会賞



「深海調査潜水艦  
おおぐそく 16000」

甲斐田 哲太郎 長崎県南島原市立口之津小学校 3 年生

「いくつかの潜水艦」  
長井 景仁

愛媛県愛媛大学教育学部附属小学校 2 年生



絵画部門

「海を泳ぐオウム貝」  
橋本 将

神奈川県横浜市立城郷小学校 1 年生



絵画部門

「深海にいきたい!!」  
湯田 創喜

大阪府豊中市立西丘小学校 1 年生



絵画部門

### 海洋の夢賞

「深海「生命のたんじょう」」  
関口 実佳

青森県八戸市立吹上小学校 3 年生



絵画部門

「竜宮城行き深海特急」  
黒滝 功太郎

神奈川県横浜市立公田小学校 5 年生



絵画部門

「オオクチボヤの仲よし一家」  
山崎 天聖

新潟県燕市立西小学校 3 年生



CG 部門

「クラゲのパラグライダー」  
菊池 美桜

東京都八王子市立横山第一小学校 5 年生



CG 部門

「海水浄化アサリマシーン」  
高木 あゆみ

神奈川県横浜市立金沢小学校 5 年生



アイデア部門

「海の掃除屋グソクムシ号」  
田邊 龍司

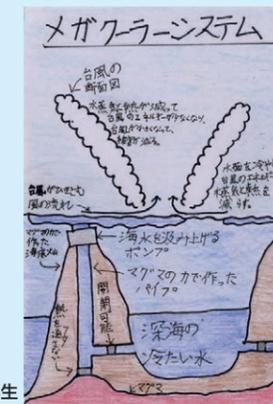
神奈川県横浜市立石川小学校 1 年生



アイデア部門

「メガクーラーシステム」  
板垣 彩靨

千葉県千葉大学教育学部附属小学校 6 年生



アイデア部門



## 中部沖縄トラフで新たに2ヶ所の熱水噴出域を発見

～熱水噴出域における効率的な調査手法の有効性を確認～

JAMSTECの海底資源研究プロジェクト海底熱水システム研究グループは、マルチビーム音響測深機(送波した音響ビームの伝搬時間から水深値を求める装置)を用いた高速広域調査により、計4.5日間という極めて短期間の調査で、2ヶ所の新しい熱水噴出域を発見しました。さらに、この2ヶ所の熱水噴出域をカバーする巨大な熱水噴出域が存在する可能性が示唆されました。

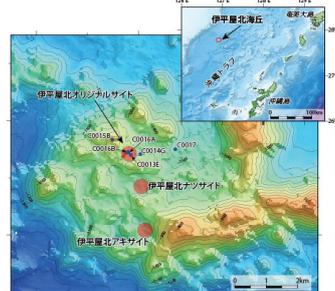
これまでの熱水噴出域の調査方法は、地形を観測し、カルデラ地形等での詳細な物理・化学的計測により、熱水噴出域の存在とおおよその位置を推定するため、熱水の探査や複数のサイト発見に多大な時間と労力がかかりました。そこで研究チームは、マルチビーム音響測深機を搭載した調査船を走らせるだけで、短時間で熱水の存在場所を絞り込むという新しい調査手法に注目しました。

2013年11月に海洋調査船「なつしま」による音響調査を、中部沖縄トラフ伊平屋北海丘の6 km四方で夜間1晩調査したところ、伊平屋北オリジナルサイトの南方1.2kmと2.6kmの2ヶ所に、明瞭な熱水ブルームの兆候を検出しました。続いて12月に、深海巡航探査機「うらしま」に搭載された音響装置と化学センサーによって、詳細な海底地形と熱水噴出シグナルを1日で明らかにし、1月には、海洋調査船「かいはう」と無人探査機「ハイパードルフィン」

を用いた3日間の海底観測調査で、伊平屋北ナツ(夏)サイトと伊平屋北アキ(秋)サイトの2ヶ所に新たな熱水噴出域を発見しました。また、新たな熱水サイトを無人探査機「ハイパードルフィン」により詳細な観察・計測を行ったところ、伊平屋北オリジナルサイトと伊平屋北ナツサイトおよび伊平屋北アキサイトは、3km以上の水平方向の広がりをもつ巨大なひとつの海底熱水域(伊平屋北熱水複合域)であることが示唆されました。

今後、さらに深海熱水調査研究スキーム全体の完成度を高めることにより、海底熱水鉱床の分布・規模の把握と成因の解明に寄与することが期待されます。

なお、本研究調査の一部は、第3回キャノン財団「理想の追求」研究助成金を受けて行われたものです。(海底資源研究プロジェクト 現: 海底資源開発センター)



調査海域図 (青丸は地球深部探査船「ちきゅう」によって実施された科学掘削調査地点)



## 第3期中期計画の開始と組織改編について

JAMSTECは、平成26年4月1日より第3期中期計画(平成26年4月1日～平成31年3月31日)を開始しました。

この計画において国家的・社会的ニーズを踏まえた出口志向の重点研究開発を組織横断的に推進するため、以下の7つの中期研究開発課題を設定しました。

- ① 海底資源研究開発
- ② 海洋・地球環境変動研究開発
- ③ 海域地震発生帯研究開発
- ④ 海洋生命理工学研究開発
- ⑤ 先端掘削技術を活用した総合海洋掘削科学の推進
- ⑥ 先端融合情報科学の研究開発
- ⑦ 海洋フロンティアを切り拓く研究基盤の構築

さらに第3期中期計画の着実な達成に向け、平成26年4月1日付で研究部門及び開発・運用部門の組織を見直しました。

### (1) 研究部門

分野を越えた総合的な研究を活発化するため、課題解決型の戦略研究開発領域と、課題の根幹となる分野の先進的研究を行う基幹研究領域の2領域に再編しました。

#### ① 戦略研究開発領域

戦略研究開発領域は、出口指向の課題への対応、国際科学プロジェクトの

主導等、重要課題を迅速かつ集中的に実施します。

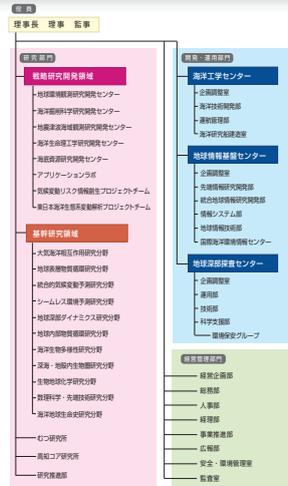
#### ② 基幹研究領域

基幹研究領域は、出口指向の課題やイノベーション課題の根幹となる分野について、新たな科学的知見の開拓に資する先進的な研究を行います。基幹研究も戦略研究に欠かさない位置付けとして中期計画の達成に積極的に貢献します。

### (2) 開発・運用部門

情報基盤の開発・運用を一括して推進するため、旧地球シミュレーションセンターの開発・運用機能と旧地球情報研究センターのデータ・サンプルの管理・公開機能とを統合し、新たに地球情報基盤センターを設置しました。

(経営企画室)



独立行政法人海洋研究開発機構組織図 (平成26年4月)

## イベントのお知らせ

### ● JAMSTEC 横須賀本部 施設一般公開

JAMSTEC 横須賀本部の施設一般公開を実施します。世界一周航海を終えた有人潜水調査船「しんかい 6500」の実機展示や、支援母船「よこすか」、横須賀本部では初となる東北海洋生態系調査船「新青丸」の船内公開、最先端の研究室を見ることが出来るラボツアー、公開セミナー、キッズパークなど、たくさんの楽しいイベントをご用意しています。ぜひご来場ください。

日時：2014年5月10日(土)  
9:30～16:00(15:30入場受付終了。雨天実施。)  
会場：JAMSTEC 横須賀本部(神奈川県横須賀市夏島町2番地15)  
京浜急行線 追浜駅前から無料送迎バスあり。  
詳細はWEBサイトをご覧ください。  
[http://www.jamstec.go.jp/j/pr/public\\_open/yokosuka/2014/](http://www.jamstec.go.jp/j/pr/public_open/yokosuka/2014/)

## 受賞報告

賞	受賞者	業績
日本堆積学会2014年山口大会 最優秀口頭講演賞	吉河秀郎(アプリケーションラボ 現:数理科学・先端技術研究分野 ポストドクトラル研究員)	講演「2011年東北地方太平洋沖地震津波による浅海底津波堆積物: 仙台湾南部浅海域での調査結果」が評価された。

## 編集後記

日本では4月は各地で入学式や入社式が行われ、多くの人々が人生の新たな門出をスタートさせる時期ですが、当機構においても新規採用者が初任者研修終了後にそれぞれ職場に配属となりました。また、2014年4月より開始されました第3期中期計画の下、国立大学法人高知大学との包括連携協定や防衛省技術研究本部との研究協力協定の締結による研究協力が本格的に始動することとなりました。来る5月10日には当機構横須賀本部にて施設一般公開の開催を予定しており、この機会にこうした機構の新たな取り組みの一端についてもぜひご覧いただきたいと考えております。皆様のご来場を役職員一同心よりお待ちしております。(K.O.)